

関連項目：指導体制プラン①

## チーム城辰として様々な課題に柔軟に対応する

### 目的

本校はすなおで明るく優しい児童が多い。しかし、学校に来にくい児童がいたり、様々な課題をもつ児童がいたりする。そこで、教職員が「チーム城辰」として団結し、様々な課題に対応するようにした。

### 内容

#### ● 朝の靴箱チェック

始業時刻になると、必ず生徒指導主事が靴箱を見回り、靴がない児童（欠席もしくは遅刻）の確認を行う。その上で、欠席や遅刻の連絡がない児童に関しては、生徒指導主事や管理職など職員室にいる者が、確認の電話を該当の家庭に行うようにした。行き渋る児童がいる場合、まだ起きていない児童がいる場合、保護者や本人に根気よく話しかけ、登校を促すようにしたり、場合によっては家庭まで迎えに行ったりもした。

#### ● ヘルプ体制

衝動的な行動をとったり、気持ちが落ち着かなかったりする児童がいる場合、担任からの連絡を受けると直ちに空き時間の教員が支援に入れるようにした。

さらに、継続して支援が必要な場合は、空き時間の教員や管理職がその学級に常時支援に入るように体制を整えた。授業時間だけでなく朝の活動の時間や給食の時間、帰りの会の時間も支援に入れるようにした。継続した支援体制が必要と思われる事案が生じた場合は、管理職、教務主任、生徒指導主事、関係の教員で事前に十分に協議し指導体制を整えるようにした。個々の児童もしくは学級の状態に支援の成果が現れたと判断すれば、改めて関係者で協議し、支援体制を解除するようにした。今年度、3つの学級で支援体制を整え対応してきた。

#### ● 教育相談担当、特別支援教育担当との連携

生徒指導主事と教育相談担当および特別支援教育担当がこまめに情報交換したり、それぞれの立場から対応策を提案したりするようにした。特に教育相談担当との連携は密にできており、必要に応じてスクールカウンセラーにつないだり、発達障害の専門家に意見を求めたりしながら、児童への対応や保護者への働きかけについて、多面的に検討し対応することができた。

#### ● 保護者ケア

家庭訪問や電話等を通じて保護者の悩みを聞いたり共感的態度をもってアドバイスしたりするなどして、保護者の精神的ケアに積極的に努めた。昼夜、休日関係なく児童と保護者に関わった生徒指導主事、こまめに家庭訪問や電話連絡で児童と保護者の心を開かせた学年主任など、多くの教員が保護者の困り感に寄り添いそれをケアすることで、様々な課題を改善に導くことができた。

### 成果

ともすれば学校を休みがちになる児童が、休まずに登校できるようになったことが1点目の成果である。2点目の成果は、様々な課題がさらに広がったり悪化したりせずに解決もしくは改善されたことである。3点目の成果は、保護者の考えが、学校と協力しながら児童の成長に携わっていこうというように変化してきたことである。4点目の、そして最も大きな成果は、チーム城辰として団結し課題に向き合い対応することで、どんな課題でも乗り越えられることをチーム城辰として関わったメンバーが実感できたことである。